

大阪教区
司祭各位

はじめに

大阪教区典礼委員会は、今年2月に、司祭の皆様へ「回心のためのことばの祭儀」式次第(四旬節用)をお送りいたしました。

教皇ヨハネ・パウロ二世が使徒的勧告『和解とゆるし』(2003年1月15日発行)のなかで訴えておられるとおり、日本においても、「ゆるしの秘跡」が形式的なお決まりの型で実践され、現実的な自発性を欠いているために、危機に直面していると言えるでしょう。その一方で、信徒を効果的なゆるしの秘跡の実践に招こうとしても、司祭不足のために共同回心式や黙想会の機会を設けることが司牧の現場ではしだいに困難になっているようにも思われます。また、小教区によっては経済的な困難を抱えており、黙想指導者や聴罪司祭を招きたくても、講師謝礼や交通費を捻出することが難しいという場合があります。

儀式書『ゆるしの秘跡』には、「人びとを回心と生活の刷新へと招き、キリストの死と復活による解放を告げる」(36項)ために、「回心のためのことばの祭儀」が「回心と心の清めを促進させるためにきわめて有益である」(37項)と記されており、その有用性のためにこれが勧められています。

- 1) キリスト者共同体のうちに回心の精神を養う。
- 2) 後日、各自が適切なときに行うことのできる個別告白の準備のために信者を助ける。
- 3) 人間の生活における罪と、キリストによってもたらされた罪からの解放についての認識が、子どもたちの中に徐々に養われるよう教育する。
- 4) 求道者の回心を助ける。
- 5) この祭儀は、愛に基づく完全な悔い改めの心を持つよう信者を助けるものである。したがって秘跡的赦免を与える司祭が不在の所では、非常に有益である。

この「回心のためのことばの祭儀」式次第は、四旬節用のものと同様、カトリック儀式書『ゆるしの秘跡』84～88ページに載せられている例文を基に編集、加筆したものです。

しかし準備の仕方によっては、上述したように、多くの方が神のあわれみに触れ、キリストとの出会いを深める祭儀となる可能性を秘めたものです。

この祭儀は「ゆるしの秘跡」ではありませんし、秘跡と混同されることを避けなければなりません。個人としても共同体としても、悔い改めの心を起こしてその精神を身につけるために、また、「ゆるしの秘跡」をいっそう実り豊かなものとするために、大いに役立つものです(78項参照)。

各小教区の伝統的な待降節期間中の取り組みに加えて、この祭儀をもご利用ください。

使い方

1. できるだけ早く、それぞれのブロックや小教区で「回心のためのことばの祭儀」を行う日時を決定し、ポスターを作成したり、毎週の「お知らせ」に記載したりして、周知徹底してください。「ついでに回心する」のではなく、「回心を求めて集まる」ことを重視するため、できれば主日のミサとは別の時間帯（平日の晩など）に実施することをおすすめいたします。
2. 「回心のためのことばの祭儀」に続いて個別の「ゆるしの秘跡」を受けることもできますが、待降節の間はいつでも、所属小教区以外でも、「ゆるしの秘跡」が受けられることを、あわせてお知らせくださるようお願いいたします。
3. この祭儀は、「ゆるしの秘跡」ではありませんので、洗礼を受けていない方々も最初から最後まで安心して参加していただけます。信者ではない家族や親しい友人と一緒にご参加くださいと呼びかけてみてはいかがでしょうか。
4. 司祭が司式するものとして作成されていますが、信徒に司式を委ねることもできます。その場合は、小さな字で書かれたルビをご参照のうえ、ご準備くださるようお願いいたします。
5. この式次第は司式者用です。会衆に配布するものではありません。司式者がていねいに読めば、耳で聞くだけで理解できるはずですし、受け答えもできます。「良心の糾明」の部分では、特に沈黙を大切にしてくださいようお願いいたします。
6. 「良心の糾明」とは、不安に満ちた心の中でなされる自己反省といったものではありません。「それは教会によって示された福音的規範によってなされ、またわたしたちの教師であり生活の模範であるイエス・キリストご自身とともに、またわたしたちを善と完徳に招かれる天の御父とともになされる誠実で冷静な行為です」(『和解とゆるし』31項)。
7. この式次第どおりでなければならぬというようなものではありません。編集しなおしたり、一部だけ使用したり、ご自由に工夫して下さって結構です。
8. 恐れ入りますが、ご利用になられたご感想やご意見、提案や工夫、信者の皆さんの反応などを、教区典礼委員会宛てにお送りください。また、この式次第は使わず、独自の式次第を作成して実施された場合は、それらの式次第などもお送りいただくと幸いです。締め切りは2004年1月末日です。ご協力をお願いいたします。

送り先

カトリック大阪教区典礼委員会の e-mail address: liturgy.Osaka@catholic.ne.jp

郵送の場合： 〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-12-8 共同宣教司牧梅田チーム 小田武彦

F A X 06-6371-4031

司式者用式次第

回心のためのことばの祭儀

待降節 - 主の道を備えるための回心

開 祭

立つ

入祭の歌（回心への招き）

典礼聖歌 301 「天よ露を したたらせ」

あいさつと招き

司祭 わたしたちを愛し、わたしたちの罪のために苦しみを受けられたイエス・キリストと、父である神からの恵みが皆さんとともに。

一同 また司祭とともに。

集会祭儀司式者が司式をする場合、次のようなあいさつで始めることができる。

司式者 わたしたちを愛し、わたしたちの罪のために苦しみを受けられたイエス・キリストと、父である神からの恵みがありますように。

一 同 アーメン。

——はじめの歌と司式者のあいさつの後、司式者は、信者が罪においても悔い改めにおいても互いに結ばれていること、また共同体全体の聖化のためにも、一人ひとりが回心に招かれていることを簡単に説明する。

司式者は次のようなことばで祈りに招く。

司祭 皆さん、わたしたちは、主の来臨の神秘を祝おうとしています。ふさわしい準備をして、主を迎えることができるよう祈りましょう。……

または

主の降誕を迎えるにあたって、キリスト者としての日々の生活を振り返り、主に立ち戻る回心の恵みを祈りましょう。……

しばらく沈黙のうちに祈る。

天地万物の造り主である父よ、
あなたは 御ひとり子を世のあがない主として送って下さいました。
罪を除いて、わたしたちと同じ姿になられた救い主によって
いつくしみを注ぎ、罪から解放して下さい。

わたしたちの主イエス・キリストによって。
一同 アーメン。

ことばの典礼

聖書朗読

儀式書『ゆるしの秘跡』96～97ページから、他のふさわしい福音箇所を選ぶことができる。

司祭 回心して主の道に従うようにと、神はわたしたちを招いておられます。聖書のことばを聞きましょう。主は皆さんとともに。

一同 また司祭とともに。

司祭 マタイによる福音。

一同 主に栄光。

(マタイ3・1-12)

そのころ、洗礼者ヨハネが現れて、ユダヤの荒れ野で宣べ伝え、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言った。これは預言者イザヤによってこう言われている人である。

「荒れ野で叫ぶ者の声がする。

『主の道を整え、

その道筋をまっすぐにせよ。』」

ヨハネは、らくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べ物としていた。そこで、エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。

ヨハネは、ファリサイ派やサドカイ派の人々が大勢、洗礼を受けに来たのを見て、こう言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』などと思ってもみるな。言うておくが、神はこんな石からでも、アブラハムの子たちを作り出すことができになる。斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。わたしは、悔い改めに導くために、あなたがたに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その方の履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」

司祭 キリストに賛美。

一同 キリストに賛美。

座る

説教

司祭や助祭が不在の場合は、カトリック大阪教区が試用版として作成した「司祭不在のときの主日の集會祭儀」11～12ページを参考にしながら、集會祭儀司式者による勧めのことばや、分かち合いなどの時間をもつ

ことができる。

立つ

詩編による祈り

典礼聖歌 137 「すべての人の救いを」

座る

反省（良心の糾明）

司祭は聖書のことばと共同体が陥っている状況とを照らし合わせながら、共同体と各個人が真の回心を起こすために、たとえば次のようなことばで一同に反省(良心の糾明)を促す。

司 祭 神と兄弟に対しておかした罪をみとめましょう。……

神との交わりにおいて

司 祭 わたしたちはキリストに結ばれて神の子となり、神を父と仰ぐ恵みにあずかっています。わたしたちはその恵みにふさわしい者として日々、あゆむことができていたでしょうか。しばらく沈黙のうちに振り返り、わたしたちの弱さを認めましょう。……

司 祭 聖パウロはわたしたちに「苦難の中にあるときこそ、いつも喜んでいなさい」とすすめています。わたしたちはたとえ逆境のただ中に置かれても、心の奥底にいつも信仰のよろこびを保ち、神の愛に信頼して自分を委ねることができていたでしょうか。

(沈黙)

司 祭 だれでもわたしのもとに来なさい、休ませてあげようと呼びかけてくださるあなたに信頼できなかつたわたしたちを、主よ、あわれみたまえ。

一 同 主よ、あわれみたまえ。

司 祭 預言者イザヤは、口先だけで神を敬い、礼拝に心がともなわない民を戒めました。わたしたちは、神のみ旨を求めることなく一方的に願い事などをし、祈りのことばをそらんじて、ただ習慣的に繰り返してばかりいるようなことはなかつたでしょうか。

(沈黙)

司 祭 主の名を呼ぶばかりで御心を行わず、あなたに知られた者のうちに数えられていなかつたわたしたちを、キリスト、あわれみたまえ。

一 同 キリスト、あわれみたまえ。

司 祭 聖書は「人は、神と富とに仕えることはできない」と教えています。金銭は生きるために必要なものですが、自分が金銭を支配している、あるいは支配されている、ということではなかつたでしょうか。地上の財産にとらわれ、富を追求して正義を曲げようとしたことはなかつたでしょうか。

(沈黙)

司 祭 地上に富を積んで心をさびつかせ、あなたが与えてくださる必要なものをないがしろにしていたわたしたちを、主よ、あわれみたまえ。

一 同 主よ、あわれみたまえ。

自分自身に対して

司 祭 神はわたしたちをご自分の似姿として創造され、聖霊が宿る神殿としてくださいました。わたしたちはその恵みのうちに、日々、神からいただいた自分自身の心とからだを、本当にたいせつにできていたでしょうか。しばらく沈黙のうちに、わたしたちの弱さを振り返りましょう。……

司 祭 主は弟子たちの足を洗われて「人の子は仕えられるためではなく、仕えるために来た」ことをお示しになりました。わたしたちは主が示されたこの謙遜から遠く離れ、むしろ他者より優れて見えるようにと虚勢をはり、自らの弱い、ありのままの姿を隠してしまうようなことはなかったでしょうか。

(沈黙)

司 祭 子どものように あなたのみ前に進み出る勇気をもてない わたしたちを、主よ、あわれみたまえ。

一 同 主よ、あわれみたまえ。

司 祭 主イエスは空腹でありながら「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と仰せになり、荒れ野で悪魔の誘惑を退けられました。わたしたちは情欲や快樂のとりこになり、神からいただいたこのからだを、自分のほしいままにするようなことはなかったでしょうか。

(沈黙)

司 祭 自分のからだのことであれこれと思い悩み、神の国とその義とを求めていなかった わたしたちをキリスト、あわれみたまえ。

一 同 キリスト、あわれみたまえ。

司 祭 神はキリストをお遣わしになり、その贖いによって「捕らわれている人に解放を、圧迫されている人に自由」をもたらされました。わたしたちは、この恵みのうちにありながら神に感謝せず、むしろ自由とわがままとをはき違えて傲慢な振舞いに はしることはなかったでしょうか。

(沈黙)

司 祭 自分の命を得ようとしてそれを失うわたしたちを、主よ、あわれみたまえ。

一 同 主よ、あわれみたまえ。

周囲の人びとに対して

司 祭 聖ヨハネはわたしたちに「神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです」とのべ、互いに愛し合うことによって神を見るようになる、と教えています。わたしたちは周囲の人びとのために、どれだけ祈り、また励ますことができていたでしょうか。しばらく沈黙のう

ちに、わたしたちが神と人に対して犯した罪を認めましょう。……

司 祭 「わたしの小さな者の一人にしてくれたことは、わたしにしてくれたことなのである」と仰せになった主は、自ら「小さな者」となって十字架を担われました。わたしたちは、自分が背負う重荷の不平を言うばかりで、むしろ言葉や行いによって、他者に重荷を課したり圧迫したりしたことはなかったでしょうか。

(沈黙)

司 祭 隣人の肩にのしかかった重荷に無関心でいるわたしたちを、主よ、あわれみたまえ。

一 同 主よ あわれみたまえ。

司 祭 主は「つまずきを他者にもたらず者は不幸である」と仰せになり、「そのような者は、これらの小さい者一人をつまずかせるよりも、首にひき臼を懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がましである」とさえ言われました。人をゆるすにおそく、裁くにきびしいわたしたちは、自分自身の満足を求めようと、いろいろな言葉で相手を追い込み、つまずかせてしまったことはなかったでしょうか。

(沈黙)

司 祭 自分の内から出たもので他人を汚すわたしたちを、キリスト、あわれみたまえ。

一 同 キリスト、あわれみたまえ。

司 祭 主は弟子たちに、「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される」と仰せになりました。自分では神に「わたしたちの罪をおゆるしてください」と願いながら、人をゆるして受け入れるために苦しむよりも、むしろ人と向かい合うことを巧妙に避け、神が結び合わせてくださった絆を引き裂くことはなかったでしょうか。

(沈黙)

司 祭 鎌に手をかけていながら後ろを振り返り、あなたのことばに従うことのできないわたしたちを、主よ、あわれみたまえ。

一 同 主よ、あわれみたまえ。

回 心

立つ

一般告白

反省の後、司式者は次のようなことばで一同にすすめる。

司祭 皆さん、わたしたちは 自分でも気づかないうちに神から離れ、家庭に、社会に、また世界に、平和をもたらすことができないまま、光を見失って闇の中を歩んでいました。わたしたちが神に背き、兄弟を傷つけていたことを認め、ゆるしを求めて祈りましょう。

一同 全能の神と、兄弟の皆さんに告白します。

わたしは、思い、ことば、行い、怠りによって、たびたび罪を犯しました。聖母マリア、すべての天使と聖人、そして兄弟の皆さん、罪深いわたしの

ために神に祈ってください。

または

司祭 皆さん、救い主を遣わしてくださる神のいつくしみを思い、ゆるしを求めて祈りましょう。
先唱 洗礼者ヨハネを通して回心呼びかけてくださる主よ、あわれみたまえ。
一同 主よ、あわれみたまえ。
先唱 救いの喜びをもたらしてくださるキリスト、あわれみたまえ。
一同 キリスト、あわれみたまえ。
先唱 聖霊によってマリアに宿られた主よ、あわれみたまえ。
一同 主よ、あわれみたまえ。

続いて司式者は、一同が喜びを持って主の降誕を迎えることができるよう、適切な時にゆるしの秘跡にあずかって個別告白を行うようにすすめる。

また、回心と隣人愛のしるしとして、何か具体的な実践、たとえば貧しい人を助けたり、病人を訪問したり、不公平、不正を是正するために働きかけることなどをすすめることができる。

主の祈り

一同で主の祈りを歌うか唱える。

司祭 皆さん、父である神に心を向け、わたしたちを悪から解放してくださるよう祈りましょう。
一同 天におられる……

司祭 全能永遠の神よ、
あなたは世を ご自分に立ち帰らせるために、
ひとり子を送ってくださいました。
わたしたちの心から、罪の やみを打ち払ってください。
あけぼのの光のように近づく御子の誕生を、
喜びの心をもって迎えることができますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。
一同 アーメン。

平和のあいさつ

司祭 主の平和がいつも皆さんとともに。
一同 また司祭とともに。

司祭不在のときに集会祭儀司式者がおこなう場合は、上の2行は省く。

司祭 たがいに平和のあいさつをかわしましょう。
一同 主の平和。

閉 祭

祝福とあいさつ

司祭 全能の神、父と子と聖霊の祝福が+皆さんの上にありますように。
一同 アーメン。

集会祭儀司式者が司式をする場合、上の2行は省き、次のようなことばで祈りを結ぶ。

司式者 全能の神、父と子と聖霊がわたしたちを祝福し、すべての悪から守り、永遠のいのちに導いてくださいますように。
一 同 アーメン。

司祭 回心のためのことばの祭儀を終わります。行きましょう、主の平和のうちに。
一同 神に感謝。

結びの歌（神への感謝）

典礼聖歌 394 「主のみちを そなえよ」